専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ヴォイストレーニングⅠ		授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォイストレーニングⅠ			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経歴21年。様々なステージ、メディア出演を経験、有名アーティストの出演CMで1,000人の歌唱指導を担当。現在の指導対象はミュージシャンのみならず、俳優、映像、舞台など幅広い指導経験を持つ。					

授業概要
楽器である身体を鍛える為の筋力トレーニング、体幹トレーニングを行い、更に歌唱時に必要な身体の使い方を学ぶ。 シンプルなスケールを使ったメソッドを繰り返し行う。

到達目標
各カテゴリーに対して正しい知識を理解すると共に、身体全体を鍛えると共に発声に必要な身体の部位を鍛え、正しく使えることを目的とする。

授業計画・内容	
【前期] 1～4回目	「Lifestyle、ストレッチ、姿勢、呼吸」ヴォーカリストに必要な生活習慣のレクチャー、歌う前に身体の緊張を解す準備運動、基本姿勢、発声に必要な横隔膜及び胸郭の使い方を学ぶ。
【前期] 5～8回目	「腹式」発声時に腹圧をどのように設定し、それをどの状況でコントロールするのかを、スケール(音階)を使用したメソッドで繰り返しトレーニングする。
【前期] 9～12回目	「滑舌」言葉を発する時の唇、舌、顔の筋肉の基本的な使い方を学ぶと同時に、それぞれの部位を正確に動かせるように繰り返しメソッドを行うことで鍛えていく。また、強弱や明暗などのコントロールを応用として行えるようにする。
【前期] 13～16回目	「共鳴」音量ではなく“響き”を作る為に必要な副鼻腔、口腔、咽頭の基本的な使い方を学ぶ。更に、様々なトーン(柔らかい、堅いなど)を使い分けられるようにそのコントロール方法も身に付ける。
【前期] 17～19回目	「高音域①」高音域を発声するのに必要な声帯及びその周囲の筋肉の基本的な使い方を学び、対してNGパターンも併せて学ぶ。また、ただ発声出来ているだけではなく、必要な共鳴を備え、その度合い(太い、柔らかいなど)をコントロール出来るように様々なメソッドを繰り返し行う。
【前期] 20回目	前期試験
【後期] 21～24回目	「高音域②」上の「高音域①」を継続
【後期] 25～28回目	「支え」声を真っ直ぐに伸ばす時や音程が上がる時に、その声の共鳴を安定したものにする身体の使い方を、様々なスケールトレーニングを繰り返し行うことにより学ぶ。
【後期] 29～32回目	「トーンコントロール」歌詞の内容や曲調に対して必要な声のトーンにはどのようなものがあるかを知り、それらを実際に使える技術を身に付ける。更にどのトーンをどういう場合に使うかのセンスも学ぶ。
【後期] 33～35回目	「総合①」今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高める。
【後期] 36回目	後期試験
【後期] 37～39回目	「総合②」今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高めることを継続する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	歌唱時の基本的な身体の使い方を身に付けることは、何よりも大切。間違った発声法は喉を傷めるだけでなく、聴衆に嫌悪感を感じさせます。そういったものを“個性”と正当化しないことです。
使用教科書	全コース共通の教科書を使用

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ヴォーカルセオリー	授業形態/必・選	講義	必修
	フレージング		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験41年。1983年にメジャーデビュー。その後ヴォイストレーナーとして数多くのメジャーアーティストの指導を行う傍ら、現在もヴォーカリストとして活動を続け、ロードレースのテーマソングを歌う、デビューしたバンドの再結成全国ツアーを三年連続で行うなど、精力的に活動中。				

授業概要
先ず既存のフレーズの発声面、技術面の分析及び解説を行い、それぞれの技術の目的と使った結果の効果を理解させる。次に、講師が作成したフレーズにどのように技術を織り込むかの実践を行い、それらを使うセンスも身に付けさせる。

到達目標
歌詞の内容やオケ(楽器)の演奏に対して、“どの声でどの技術をどのポイントで使うのか”を身に付け、聴衆に感動を与える歌が歌えるようになることを目指す。

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	「授業の内容、目的の説明。アップテンポの曲①を使用、アタックとアクセント」歌詞やメロディーに対して、その世界観やメッセージを伝える歌い方に必要な発声法及び表現法を学ぶという内容を理解させる。アップテンポの例題曲を使用し、アタック、アクセントの意味や目的の理解をさせ、リズムやグルーヴをフレーズ内に創る方法を講義形式で学ぶ。
【前期】 5～8回目	「バラードの曲①を使用、ヴィブラート、エッジ」フレーズのリリースアウトに使うヴィブラート、フレーズ頭で使うエッジの目的を学び、それを身に付けるメソッドを知識として学ぶ。
【前期】 9～12回目	「アップテンポの曲②を使用、アップベンド、ダウンベンド」フレーズにグルーヴを与えるベンドの内容を理解させ、様々なメソッドを知識として学ぶ。
【前期】 13～16回目	「バラードの曲②を使用、ブレスアピール、ブレスカット」フレーズ内に息の音をわざと入れる方法と目的を学び、それを身に付けるメソッドを知識として学ぶ。
【前期】 17～19回目	「バラードの曲③を使用、ウイスパーとファルセット」ウイスパーとファルセットの出し方の基本的な形を学び、様々なメソッドを学ぶ。更に、ナチュラルヴォイスとの切り替えに対して必要な身体の使い方を学び、実際の歌唱に繋げていく。
【前期】 20回目	前期試験
【後期】 21～24回目	「アップテンポの曲③を使用、ヒーカップとフォール」エキセントリック歌唱に効果的なヒーカップ、リリースアウトに入れることで効果を生むフォールの内容と目的を学び、それを習得するメソッドを学習する。
【後期】 25～28回目	総復習
【後期】 29～32回目	「講師作成のフレーズでの実践～アップテンポ編」講師が作成したアップテンポの1フレーズに対して、今まで学習してきたことを活かして歌詞、メロディー、オケ(楽器演奏)に対して、その世界観を伝える効果的なフレーズの作り方を考察する。
【後期】 33～35回目	「講師作成のフレーズでの実践～バラード編」上の内容のバラード編
【後期】 36回目	後期試験
【後期】 37～40回目	「既成曲を使用、元アーティストの歌詞、メロ、オケのみ提示して答え合わせ」既成曲の歌詞、メロディーをピアノで弾いたもの、オケ(楽器演奏)のみを提示し、それに対してどうフレーズを組み上げるかを考察する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	その歌詞、メロディーをオケ(楽器)に対してどう歌として仕上げるか。これは、聴衆に感動を与えられるかどうかに大きな意味を持ちます。使うべきテクニック、声のトーンが各フレーズにセンス良く使われている歌を歌い、歌詞の中にある主人公の気持ちや物語、場面が聴衆に伝わる歌を歌う為に必要な授業です。
使用教科書	講師が独自に作成したテキストを使用

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ソングライティングⅠ		授業形態/必・選	講義	必修
	ソングライティング			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験30年 97年キューンSONYよりメジャーデビュー。後に某TV番組にレギュラーギタリストとして1年間出演。2000年以降はDAWアレンジ、トラックメイク、バンド、サポートギタリスト等で活動している。					

授業概要
スマホ(もしくはipad)を使用してのDAWを行う。アプリ(Garageband)の使い方を習得する。 理論系の授業の進み具合を見ながら、簡単な楽器の理解、歌を中心としたアンサンブル及びアレンジを学ぶ。

到達目標
歌の背後にある楽器構成、リズムへの理解 オリジナル曲、メロディの作成 ネット配信及びSNS上でのアーティスト活動の基盤作り

授業計画・内容	
【前期] 1～6回目	スマホでの操作の基本 データ管理等の基本・データの保存方法・コピーペースト、ファイル名の変更等
【前期] 7～11回目	Garageband上での操作の初歩的なポイント ・簡易なコード入力 簡易なリズム入力・テンポの変更等
【前期] 12～16回目	指定されたコードに対する簡易なメロディ作成 またそのポイントについて ・音価の差の比較 ・スラーやタイの入力等
【前期] 17～21回目	ドラム ベースの特性を理解してフレーズ入力 ピアノコードの理論的な事柄との擦り合わせ ・様々な基本演奏パターンの学習
【前期] 22回目	前期試験
【後期] 23～27回目	既存曲の1パートの骨格をコピー ・ メロディとコード メロディとリズムの関係を考察
【後期] 28～32回目	DAW特有の機能(アルペジエーター、オートプレイその他)の積極的な使い方 ・プリセットパターンを使用してのストリングス、ブラス等の入力
【後期] 33～36回目	ギター、歌などマイキングした音の入力について・レベル調整の意味とその方法
【後期] 37回目	1コーラス以上のオリジナル曲の作成 動画作成①・セクションの理解・楽曲イメージの映像化
【後期] 38回目	後期試験
【後期] 39回目	1コーラス以上のオリジナル曲の作成 動画作成②
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	スマホのみでも音楽のスケッチは出来ます。 歌のバックに流れる音やムードに理解を広げて、自分の音楽表現やオリジナル曲に繋げていきましょう！ SNS等での発信の足掛かりにもなると思います。音楽性はみんな異なると思うので、気になる事はどんどん質問してください。
使用教科書	なし

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	歌唱自由(ヴォイストレーニング)Ⅰ	授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォーカル&ヴォイトレⅠ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、サウンドクリエイターコース(選択)				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験29年。 音楽大学音楽教育学部卒業後、高校音楽科非常勤講師を経てダンスヴォーカルグループでの活動の他、 アーティストのコーラスなどに参加。現在はアーティスト、ライバー、アイドル等のヴォイストレーニ ング、軽音部コーチなど後進の育成を手掛けている。				

授業概要
ヴォイストレーニングで学んだことが実際に曲を歌う中で織り込めているかを確認し、出来ていないものの再習得のトレーニングを行い、より実践的な身体の使い方を身に付けていく。

到達目標
その曲のそのフレーズに必要な発声法をより確実に行うことにより、伸びやかさと力強さ、柔らかさを兼ね備えた声を駆使出来るヴォーカリストになることを目指す。

授業計画・内容	
【前期] 1～4回目	「姿勢、呼吸の自由曲の中での実践、修正、底上げ」表題の項目が、歌唱の中で正しく行えているかの確認を行い、行えていないものに関してヴォイストレーニング的メソッドを繰り返し行う。
【前期] 5～8回目	「腹式の自由曲の中での実践、修正、底上げ」歌唱時に腹圧が多すぎる、少なすぎることの修正を主に行う。共鳴と関連付ける必要性を理解させ、出ている声の質、発声している本人の喉の負担等の知識も併せて学ばせる。
【前期] 9～12回目	「滑舌の自由曲の中での実践、修正、底上げ」低いメロディーや柔らかい声の時の発音の弱さ、高音域や激しいオケの時のずっと強すぎる言葉の修正を主なものとする。また、フレーズ内で強弱の差を付けるコントロールも実践出来るようにする。
【前期] 13～16回目	「共鳴の自由曲の中での実践、修正、底上げ」曲の世界観を伝えるのに必要な、伸びやかな声やパワフルな声などを正しく作れているかを主なものとする。更に、フレーズ内でその大小、強弱をコントロールする方法も学ぶ。
【前期] 17～21回目	「高音域①の自由曲の中での実践、修正、底上げ」フレーズ内の高音域を発声するのに必要な身体の使い方が正しく出来ているかを確認、出来ていないところを、腹圧の度合い、喉の開き、共鳴の設定、重心の位置を主に確認、修正する。
【前期] 22回目	前期試験
【後期] 23～26回目	「高音域②の自由曲の中での実践、修正、底上げ」上の「高音域①の自由曲の中での実践、修正、底上げ」の継続。
【後期] 27～30回目	「支えの自由曲の中での実践、修正、底上げ」フレーズ内のロングトーンの安定、音の跳躍時の重心の設定及び腹式発声の継続を主に確認、修正する。
【後期] 31～34回目	「トーンコントロールの自由曲の中での実践、修正、底上げ」歌詞の世界観、曲調に必要な声のトーンの設定を、腹式の度合い、共鳴の設定などを確認すて修正する。更に、フレーズ内での変化、コントロール方法も身に付ける。
【後期] 35～38回目	「総合①」学んだこと全てを、例題曲の中で実践出来ているかを総合的に確認、修正する。
【後期] 39回目	後期試験
【後期] 40回目	「総合②」上の「総合①」の継続。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	出したい声に対して、どう身体をコントロールするかによって聴こえ方、伝わり方が違います。その重要さを理解した上で、曲中でこそ様々な身体の部位の使い方をより高めて、声と言葉だけでも曲の世界観が伝わる歌を歌いましょう。
使用教科書	全コース共通の教科書を使用

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンブルⅠ（前期）	授業形態/必・選	実習	必修
	アンサンブルⅠ_（前期）		年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	20回（40単位時間）	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験14年 自身の活動として楽曲配信やソロアルバムを発売、Youtubeにおいてはレッスン動画や業界の知識を配信等、積極的に活動。またエンジニアとしても活動しておりミックスやマスタリング、そして作曲等も全て自主でこなし、楽曲提供や数々の著名なヴォーカリストと共演。				

授業概要

コミュニケーションを第一に既成曲を題材に、互いに周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。
アンサンブルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成（MCや曲間の繋ぎ）、アンサンブルに必要な要素（テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス）の重要性を学ぶ。
題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。
MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。

到達目標

合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。
授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。
コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。

授業計画・内容	
【前期】 1～16回目	**アンサンブルとは何か** ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識（五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど）の復習、確認。 **課題曲①～④** ・既成楽曲（課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲）を4週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ（キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など）の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカヴァーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い譜面に反映させる。 ・聞き手を意識したトータル的プロデュース。 **アンサンブルフェスティバルへ向けて** ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける（目や耳を傾ける）余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたリハーサル（MCや曲間の流れの確認）を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ（アンサンブルフェスティバルの舞台）に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。
【前期】 17～19回目	**アンサンブルフェスティバルの事前資料作成** ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。
【前期】 20回目 （前期試験）	**半期のまとめ** ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	楽器やシールド・チューナー・エフェクターは自身の物を持ち込みましょう！※外部では持ち込みが常識です。1クール間（課題曲が切り替わるまで）はレンタル可。 コミュニケーションが音楽業界では第一、その大事さと、現代における人との関わり方や他人への興味を養う。 講師に頼るばかりではなく、学生間で情報を伝達するなどアンサンブルメンバーの一人としての自覚と責任を持ちましょう。 今後の人生を豊かにする為にも他者との関わりを積極的に持ち、前向きな姿勢で取り組んでください。 生音の体感やアンサンブルの仕組みを知る事で創作や演奏の幅も広がります。他の授業で学んだ事を実践できる場ですので、楽しみながら皆で盛り上げていきましょう！
使用教科書	学校内作成のマスター譜や譜面

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンブルⅠ（後期）	授業形態/必・選	実習	必修
	アンサンブルⅠ_（後期）		年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	20回（40単位時間）	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験14年 自身の活動として楽曲配信やソロアルバムを発売、Youtubeにおいてはレッスン動画や業界の知識を配信等、積極的に活動。またエンジニアとしても活動しておりミックスやマスタリング、そして作曲等も全て自主でこなし、楽曲提供や数々の著名なヴォーカリストと共演。				

授業概要

コミュニケーションを第一に既成曲を題材に、互いに周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。
アンサンブルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成（MCや曲間の繋ぎ）、アンサンブルに必要な要素（テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス）の重要性を学ぶ。
題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。
MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。

到達目標

合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。
授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。
コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。

授業計画・内容	
【後期】 1～14回目	**アンサンブルとは何か** ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識（五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど）の復習、確認。 **課題曲①～④** ・既成楽曲（課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲）を4週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ（キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など）の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカヴァーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い譜面に反映させる。 ・聞き手を意識したトータル的プロデュース。 **アンサンブルフェスティバルへ向けて** ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける（目や耳を傾ける）余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたリハーサル（MCや曲間の流れの確認）を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ（アンサンブルフェスティバルの舞台）に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。
【後期】 15～17回目	**アンサンブルフェスティバルの事前資料作成** ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。
【後期】 18～20回目 （前期試験）	**半期のまとめ** ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	楽器やシールド・チューナー・エフェクターは自身の物を持ち込みましょう！※外部では持ち込みが常識です。1クール間（課題曲が切り替わるまで）はレンタル可。 コミュニケーションが音楽業界では第一、その大事さと、現代における人との関わり方や他人への興味を養う。 講師に頼るばかりではなく、学生間で情報を伝達するなどアンサンブルメンバーの一人としての自覚と責任を持ちましょう。 今後の人生を豊かにする為にも他者との関わりを積極的に持ち、前向きな姿勢で取り組んでください。 生音の体感やアンサンブルの仕組みを知る事で創作や演奏の幅も広がります。他の授業で学んだ事を実践できる場ですので、楽しみながら皆で盛り上げていきましょう！
使用教科書	学校内作成のマスター譜や譜面

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンブルⅠ（前期）		授業形態/必・選	実習	必修
	アンサンブルフォロー_前期			年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）		年間授業数	20回（40単位時間）	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験17年 2006年にTV番組テーマ曲でメジャーデビュー。国外、国内の多くの有名アーティストと共演。2020年ドラマ挿入歌など多くのタイアップ曲を集めたソロアルバムをリリース。現在は様々な媒体で活動すると共に、自身の経験を活かした育成指導を行っている。					

授業概要
「アンサンブルⅠ」を受講する歌系の待機学生を対象とし、課題曲をバンドで歌える状態まで仕上げる。 バンドで歌う際に必要な要素やコーラスワークを学ぶ。 楽器系と音を合わせる為の基盤作り及び合奏を想定したスキルアップ。

到達目標
バンドで歌う為に必要な事を理解し、最低限の準備が当たり前に出来るようになる。 迅速に曲を覚えて楽曲毎のポイントを抑え、バンドの中で歌えるようになる。

授業計画・内容	
【前期】 1～19回目	**「アンサンブルⅠ」課題曲①～④の仕込み** ・歌詞にリハーサルマークやイントロ・アウトロ ・間奏の小節数（アレンジの進捗次第で都度修正）コードなどの情報を書き込み、譜面と紐つける。 ・ウォーミングアップ、声の立ち上げ ・課題曲のメロディー（音程・リズム）の確認 ・パフォーマンスに直結するリズムの取り方を練習し、定着させる。 ・原曲に用いられているテクニックの確認 ・楽曲や個々の素質と技量に適した発声の確認。 ・コーラスラインを確認し、同じ課題曲に取り組む者同士でメインメロディーとコーラス（ユニゾン、上ハモ、下ハモ、ウーワー、追っかけ、ガヤなど）を合唱。各回でパートを交代して歌う。 ・歌う箇所の振り分け（例：1コーラス目とラストサビの前半メイン担当 など）やコーラスの担当パートを確定。 ・歌詞や譜面を見ずに歌う練習 アンサンブルフェスティバルの事前資料作成をフォロー
【前期】 20回目	半期のまとめ 「前期試験」
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	「アンサンブルⅠ」授業では歌唱指導をメインに行いません（合わせる事に注力する）ので、課題曲の歌唱における技術的な事は「アンサンブルフォロー」内で質問や反復練習をし、解決してください。
使用教科書	無し

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンブルⅠ（後期）	授業形態/必・選	実習	必修
	アンサンブルフォロー_後期		年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	20回（40単位時間）	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、サウンドクリエイターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験17年 2006年にTV番組テーマ曲でメジャーデビュー。国外、国内の多くの有名アーティストと共演。2020年ドラマ挿入歌など多くのタイアップ曲を集めたソロアルバムをリリース。現在は様々な媒体で活動すると共に、自身の経験を活かした育成指導を行っている。				

授業概要
「アンサンブルⅠ」を受講する歌系の待機学生を対象とし、課題曲をバンドで歌える状態まで仕上げる。 バンドで歌う際に必要な要素やコーラスワークを学ぶ。 楽器系と音を合わせる為の基盤作り及び合奏を想定したスキルアップ。

到達目標
バンドで歌う為に必要な事を理解し、最低限の準備が当たり前に出来るようになる。 迅速に曲を覚えて楽曲毎のポイントを抑え、バンドの中で歌えるようになる。

授業計画・内容	
【後期】 1～17回目	**「アンサンブルⅠ」課題曲①～④の仕込み** ・歌詞にリハーサルマークやイントロ・アウトロ ・間奏の小節数（アレンジの進捗次第で都度修正）コードなどの情報を書き込み、譜面と紐つける。 ・ウォーミングアップ、声の立ち上げ ・課題曲のメロディー（音程・リズム）の確認 ・パフォーマンスに直結するリズムの取り方を練習し、定着させる。 ・原曲に用いられているテクニックの確認 ・楽曲や個々の素質と技量に適した発声の確認。 ・コーラスラインを確認し、同じ課題曲に取り組む者同士でメインメロディーとコーラス（ユニゾン、上ハモ、下ハモ、ウーワー、追っかけ、ガヤなど）を合唱。各回でパートを交代して歌う。 ・歌う箇所の振り分け（例：1コーラス目とラストサビの前半メイン担当 など）やコーラスの担当パートを確定。 ・歌詞や譜面を見ずに歌う練習 アンサンブルフェスティバルの事前資料作成をフォロー
【後期】 18～20回目	半期のまとめ 「前期試験」
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	「アンサンブルⅠ」授業では歌唱指導をメインに行いません（合わせる事に注力する）ので、課題曲の歌唱における技術的な事は「アンサンブルフォロー」内で質問や反復練習をし、解決してください。
使用教科書	無し

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	セルフプロデュース		授業形態/必・選	実習	必修
	ベーシック			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験40年 '84年バンドデビュー、'94年ソロデビュー、'03年ユニットデビューと並行して、2002年よりボイストレーナーの仕事を始める。現在もバンド、ユニット、ソロ、の3形態でアーティスト活動中					

授業概要
ピアノを使用したボイストレーニング、及び、自由曲による歌唱実技指導

到達目標
ボーカリストとしての身体感覚を目覚めさせる。 歌唱表現の基礎を技術面・精神面の両面から捉える。

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	ボーカリストとしての心構え 腹式呼吸を用いたブレスコントロール ウォーミングアップの方法 簡単なスケールを用いた発声練習
【前期】 6～10回目	ストレッチ～ブレスコントロール～発声 自由曲による歌唱実技(1コーラス) 腹式呼吸と共鳴に焦点を当ててレッスン
【前期】 11～15回目	ストレッチ～ブレスコントロール～発声　自由曲による歌唱実技(フルコーラス)ロングトーンとその支えに焦点を当ててレッスン
【前期】 16～21回目	ストレッチ～ブレスコントロール～発声 自由曲による歌唱実技(2曲目フルコーラス) リズム・アクセント・アタックに焦点を当ててレッスン
【前期】 22回目	前期試験
【後期】 23～25回目	ボーカリストとしての心構え 腹式呼吸を用いたブレスコントロール ウォーミングアップの方法 簡単なスケールを用いた発声練習
【後期】 26～30回目	ストレッチ～ブレスコントロール～発声 自由曲による歌唱実技(1コーラス) 腹式呼吸と共鳴に焦点を当ててレッスン
【後期】 31～35回目	ストレッチ～ブレスコントロール～発声 自由曲による歌唱実技(フルコーラス) ロングトーンとその支えに焦点を当ててレッスン
【後期】 36～37回目	ストレッチ～ブレスコントロール～発声 自由曲による歌唱実技(2曲目フルコーラス) リズム・アクセント・アタックに焦点を当ててレッスン
【後期】 38回目	後期試験
【後期】 39回目	総復習
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	歌詞をノートに書いてきて下さい。 基本、歌詞は暗記しましょう。人前で堂々と歌って、何かを伝えられる様になりましょう！
使用教科書	無し

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	セルフプロデュース	授業形態/必・選	講義	必修
	理論		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験29年。 音楽大学音楽教育学部卒業後、高校音楽科非常勤講師を経てダンスヴォーカルグループでの活動の他、 アーティストのコーラスなどに参加。現在はアーティスト、ライバー、アイドル等のヴォイストレーニ ング、軽音部コーチなど後進の育成を手掛けている。				

授業概要
音楽の基礎となるべき理論的知識(リズム、拍子、音程、音階、記譜法など)を学び、感覚的な本能だけでは解決に至らない面を 理論的に考える能力・正確さ等様々な要素と結び付けていく才能を発達させる。

到達目標
読譜の力をつける。 音階・音程を理論的に理解する。 理論的知識を実用的知識に繋ぐ。

授業計画・内容	
【前期] 1～3回目	音と十二平均律 ・音の種類、音の3要素、倍音 ・純正律と十二平均律 ・小テスト
【前期] 4～6回目	譜表と音名 ・五線、音部記号 ・幹音名、派生音名、変化記号 ・略記法 ・小テスト
【前期] 7～9回目	音符と休符、リズムと拍子・音、休符の種類と長さ、連符リズムと拍子・拍子記号、拍子の種類・小テスト
【前期] 10～13回目	音程・度数、音程の転回・協和音程と不協和音程・小テスト
【前期] 14～17回目	音階 ・長音階と短音階 ・その他の音階 ・小テスト
【前期] 18～21回目	前期のまとめ ・読譜 ・小テスト、応用、実用と実践 ・前期試験対策
【前期] 22回目	前期試験
【後期] 23～26回目	和音 ・三和音と七の和音、和音の基本形および転回形 ・音階各音上の三和音・七の和音 ・コード ・小テスト
【後期] 27～30回目	和音の機能 ・TSDTの機能 ・主要三和音と副三和音 ・コード進行 ・小テスト
【後期] 31～32回目	速さ・強さに関する表示法 ・数字による表示法、ことばによる表示法 ・速さ・強さを次第に変化させるときの表示法 ・強さを局部的に変えるときの表示法 ・小テスト
【後期] 33～34回目	曲想・奏法に関する表示法 ・曲想に関する用語、奏法を指示する用語・記号(装飾記号・省略記号を除く) ・装飾音・装飾記号 ・小テスト
【後期] 35～37回目	後期のまとめ ・小テスト、応用、実用と実践 ・後期試験対策
【後期] 38回目	後期試験
【後期] 39回目	次年度に向け各項目を深く掘り下げる ・コードの聴き取りと採譜 ・読譜 ・視唱
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	音楽理論は世界共通であり、楽譜は母国言語が異なっても音楽を伝えることが出来る第二の共通言語 です。楽しく実践を交えながら、実技とは違った側面から音楽を学んでいきましょう。
使用教科書	独自作成したテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ダンスⅠ（前期）		授業形態/必・選	実習	必修
	ダンス_前期			年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）		年間授業数	20回（40単位時間）	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験12年 数々の有名アーティストのバックダンサーやMVに出演。テーマパークのパレード・ショーダンサーも務め、幅広く活躍している。全国一位にもなった高校ダンス部の指導者でもあり、インストラクターとしても活動中。					

授業概要
アイソレーションやリズムトレーニング、簡単な振付を中心に、ダンスの基礎を重視したレッスンを行う。

到達目標
ダンスを通じてリズム感を養う。 体を使って表現することで、自身のアーティスト活動におけるパフォーマンス力を身に付ける。

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	基本的な身体の使い方をストレッチを通しながら学び、筋トレによる、動ける身体作りを行う。
【前期】 6～10回目	身体の細かい部分の動かし方をアイソレーションを通して習得する。
【前期】 11～16回目	音楽やリズムに合った身体の動かし方を、リズムトレーニングを通して習得する。
【前期】 17～19回目	コンビネーションの中でのリズムの取り方、表現力を学ぶ。
【前期】 20回目	前期試験
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	基本的な身体の動かし方など、初歩の部分から始めていきますので、楽しみながらダンスの基礎を習得してください。
使用教科書	担当講師独自が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ダンスⅠ（後期）	授業形態/必・選	実習	必修
	ダンス_後期		年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	20回（40単位時間）	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験12年 数々の有名アーティストのバックダンサーやMVに出演。テーマパークのパレード・ショーダンサーも務め、幅広く活躍している。全国一位にもなった高校ダンス部の指導者でもあり、インストラクターとしても活動中。				

授業概要
アイソレーションやリズムトレーニング、簡単な振付を中心に、ダンスの基礎を重視したレッスンを行う。

到達目標
ダンスを通じてリズム感を養う。 体を使って表現することで、自身のアーティスト活動におけるパフォーマンス力を身に付ける。

授業計画・内容	
【後期】 1～3回目	基本的な身体の使い方をストレッチを通しながら学び、筋トレによる、動ける身体作りを行う。
【後期】 4～8回目	身体の細かい部分の動かし方をアイソレーションを通して習得する。
【後期】 9～13回目	音楽やリズムに合った身体の動かし方を、リズムトレーニングを通して習得する。
【後期】 14～17回目	コンビネーションの中でのリズムの取り方、表現力を学ぶ。
【後期】 18回目	後期試験
【後期】 19～20回目	総復習
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	基本的な身体の動かし方など、初歩の部分から始めていきますので、楽しみながらダンスの基礎を習得してください。
使用教科書	担当講師独自が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アコースティックギター（前期）	授業形態/必・選	実習	必修
	AG&KEY I _前期		年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	20回（40単位時間）	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	シンガーソングライターコース、ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	

	アコースティックギター	キーボード
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1997年キューンSONYよりメジャーデビュー。 後に某TV番組にレギュラーギタリストとして1年間出演。 2000年以降はDAWアレンジ、トラックメイク、バンド、 サポートギタリスト等で活動している。	実務経験15年 国内外のアーティストやバンドのサポートキーボーディストとして、各地でのワークショップやライブ、アレンジ、レコーディング等に携わる。 レッスンや指導も行う傍ら、自身のユニットでも活動中。
授業概要		
	アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 初心者に向けたアコースティックギターの基本的な扱い方。 リズムに対する重要性、コードに対するバリエーション。 作曲の為のツールとしてのギターの扱い方。	アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 鍵盤演奏に必要なベーシックなスキルを習得する。 音感やリズム感覚を身に付けるトレーニング。 並行して取り組む様々な楽曲を通して、コードパターンや表現を学びつつ、キーボードに慣れ親しむ。
到達目標		
	ベーシックなコードワークに対応出来るようにする。 右手のピッキングタッチ、及びリズムのバリエーションを習得する。 カッティング、アルペジオの奏法を習得する。 フィンガーピッキングを習得する。	コードの響きを聞き分け、弾くことができる。 両手を使い楽曲演奏ができ、表情を加えることができる。 キーボードに沢山触れ、慣れ親しむ。

授業計画・内容		
	アコースティックギター	キーボード
【前期】 1～6回目	イントロダクション ・演奏時のフォーム（体の角度、左肘の位置など）の確認 ・右手のリズム（ピックの角度、挟む強さ）の確認 ・強弱に重点を置いたストローク	イントロダクション ・キーボード楽器全般の基礎知識、音色の違いや特徴を知る ・鍵盤上の音の並び・コードの仕組み確認 ・コードの部類を聞き分ける（Major、Minor）
【前期】 7～11回目	左手のフォームの基礎 ・コードの移り変わり時の左手の各指の動きをチェック ・各指の独立性、特に薬指と小指の強化 ・セーハコードのコツ（手首の角度など）	スケール、ダイアトニック ・様々なスケール、ダイアトニックコードの理解 ・色々なキーでも弾いてみる ・シンプルなパターンの楽曲にチャレンジ
【前期】 12～16回目	ステージングの想定 ・クリックに合わせた演奏 ・ストラップをつけてのパフォーマンス ・歌いながらのリズムの取り方、強弱の付け方	転回、ナンバリング ・転回型を用いながら、共通音を使い、フォーム（ポジション）を工夫し循環コードパターンを弾く。 ・コードパターンを通して、関係性を知る、聞き取る練習
【前期】 17～19回目	ストロークパターンのバリエーション ・8ビートとそのシンコペーション ・16ビートとそのシンコペーション	両手を使ったリズム ・右手と左手の分離、組み合わせの練習
【前期】 20回目	「前期試験」	「前期試験」
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）	
学生へのメッセージ	アコースティックギター（なるべく）持参 ピックは必ず持参 未経験の人も楽しんでやっていきましょう！	キーボードに慣れるように、楽しみながら一歩ずつ習得していきましょう！ 隔週授業なので復習や練習も頑張りましょう。
使用教科書	無し	必要に応じて課題曲の譜面配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アコースティックギター（後期）	授業形態/必・選	実習	必修
	AG&KEY I_後期		年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	20回（40単位時間）	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	シンガーソングライターコース、ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	

	アコースティックギター	キーボード
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1997年キューンSONYよりメジャーデビュー。 後に某TV番組にレギュラーギタリストとして1年間出演。 2000年以降はDAWアレンジ、トラックメイク、バンド、 サポートギタリスト等で活動している。	実務経験15年 国内外のアーティストやバンドのサポートキーボーディストとして、各地でのワークショップやライブ、アレンジ、レコーディング等に携わる。 レッスンや指導も行う傍ら、自身のユニットでも活動中。
授業概要		
	アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 初心者に向けたアコースティックギターの基本的な扱い方。 リズムに対する重要性、コードに対するバリエーション。 作曲の為のツールとしてのギターの扱い方。	アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 鍵盤演奏に必要なベーシックなスキルを習得する。 音感やリズム感覚を身に付けるトレーニング。 並行して取り組む様々な楽曲を通して、コードパターンや表現を学びつつ、キーボードに慣れ親しむ。
到達目標		
	ベーシックなコードワークに対応出来るようにする。 右手のピッキングタッチ、及びリズムのバリエーションを習得する。 カッティング、アルペジオの奏法を習得する。 フィンガーピッキングを習得する。	コードの響きを聞き分け、弾くことができる。 両手を使い楽曲演奏ができ、表情を加えることができる。 キーボードに沢山触れ、慣れ親しむ。

授業計画・内容		
	アコースティックギター（前期内容復習も兼ねる）	キーボード（前期内容復習も兼ねる）
【後期】 1～5回目	個性的なコードフォーム ・セブンス、sus4、add9コードの効果的な使い方 ・ハイポジションでのコードフォーム ・カポタストの効果的な使い方	他の様々なコード ・diminish、half diminishなど4和音の構成
【後期】 6～10回目	ギター特有のテクニック ・シンプルなアルペジオ演奏 ・シンプルなカッティング演奏 ・ハンマリング、プリング、スライド等取り入れた演奏	タイム感の意識 ・クリックに合わせてシンプルなコードパターンを弾く。
【後期】 11～16回目	フィンガーピッキング ・3フィンガー4フィンガー、それぞれの使い分け ・アルペジオとベースノートプラス和音のパターン	バッキングパターン ・色々なバッキングパターン（4分、8分、16分、分散和音など）を通してリズムやニュアンスの表現を身に付ける
【後期】 17回目	「後期試験」	「後期試験」
【後期】 18～20回目	オリジナル曲演奏指導 ・リズムバリエーション、キーの再設定 ・イントロ等のフレーズを考えてみる	楽曲演奏、年間のまとめ
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）	
学生へのメッセージ	アコースティックギター（なるべく）持参 ピックは必ず持参 未経験の人も楽しんでやっていきましょう！	キーボードに慣れるように、楽しみながら一歩ずつ習得していきましょう！ 隔週授業なので復習や練習も頑張りましょう。
使用教科書	無し	必要に応じて課題曲の譜面配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ヴォーカルトレーニング Ⅰ	授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォーカルテクニック Ⅰ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験10年 ESPミュージカルアカデミーヴォーカルコース卒業。2011年からヴォーカリストとしてライブや楽曲制作を開始。2018年に作詞家としてメジャーデビュー。現在に至るまで様々なクリエイターの楽曲に歌唱や作詞で参加。現在はゲームの主題歌やゲーム音楽を中心に活動している。				

授業概要
歌詞やオケ(楽器)の演奏に対して必要な様々なテクニックを理解、習得し表現力を高め、伝える歌、感動を与える歌を創る。

到達目標
歌詞の世界観に相応しい表現を織り込み、「伝わる歌」を歌えることを目指し、技術の高い歌をどのタイプの曲でも歌えるようになることを目標とする。

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	「自由曲の中でのアタック、アクセントの習得」 ・口の開きや動きの強弱と腹圧の関係 ・母音~子音~母音の流れに対する発音との関係 ・オケのリズムアプローチとの関係
【前期】 5～8回目	「自由曲の中でのアップベンド、ダウンベンドの習得」 ・基本的なスケールトレーニング ・フレーズを抽出、その中での実践 ・1コーラスでの実践
【前期】 9～12回目	「自由曲の中でのヴィブラートの習得」 ・基本的なメソッドの修練 ・ハミングでの歌唱 ・フレーズでの実践
【前期】 13～16回目	「自由曲の中でのエッジ、ウイスパーヴォイスの習得」 ・基本的なメソッドの反復 ・1フレーズを抽出、実践 ・1コーラスでの実践
【前期】 17～21回目	「自由曲の中でのダイナミクス、クレッシェンドの習得」 ・共鳴の確認、副鼻腔・口腔・咽頭のバランスの確認 ・各共鳴腔の増減のコントロール ・フレーズ、1コーラスでの実践
【前期】 22回目	前期試験
【後期】 23～26回目	「自由曲の中でのファルセットの習得」 ・共鳴の副鼻腔・口腔内のバランスの確認 ・息の量の増減、そのコントロール ・ナチュラルヴォイス→ファルセット→ナチュラルヴォイスの切り替え
【後期】 27～30回目	「自由曲の中でのブレスアピール、ブレスカットの習得」 ・基本的なメソッドの反復、腹式呼吸との関連性 ・1フレーズの抽出、反復 ・1コーラス内での実践
【後期】 31～34回目	「自由曲の中でのヒーカップ、フォールの習得」 ・基本的なメソッドの反復、ナチュラル→ファルセットの切り替え、音程の幅広い上げ下げ ・1フレーズ内での実践、テンポキープの確認 ・1コーラスでの実践、入れる場所を選ぶセンスのチェック
【後期】 35～37回目	「総合①」学んだこと全ての確認、復習、修正
【後期】 38回目	後期試験
【後期】 39回目	「総合②」上の「総合①」学んだこと全ての確認、復習、修正の継続
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	伝える歌に必要な“テクニック”というカテゴリーを自分の歌の中で軽視しないこと。特にバラードタイプの曲を歌う時に平坦にならない、グルーヴと説得力ある歌にすることを心がけること。
使用教科書	全コース共通の教科書を使用

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ヴォーカリスト基礎知識	授業形態/必・選	講義	必修
	ヴォーカリスト基礎知識		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経歴21年。様々なステージ、メディア出演を経験、有名アーティストの出演CMで1,000人の歌唱指導を担当。現在の指導対象はミュージシャンのみならず、俳優、映像、舞台など幅広い指導経験を持つ。				

授業概要
ヴォーカリストとして活動していく上で必要な基礎知識を学びながら、音楽・エンターテインメント的見識を元にした様々な体験を重ねる。

到達目標
ヴォーカリストとしての基礎知識を学ぶことによって、ヴォーカリストとして活動していく上での常識を身に着ける。

授業計画・内容	
【前期] 1～5回目	身体・声帯の構造等 ヴォーカルの楽器機能、歌の成り立ち等を知る。 身体の構造、声帯周りの筋肉の名称、働きの解説など。
【前期] 6～10回目	ヴォーカルが知っておくべきマイク等機材の特性を知る。 ・ダイナミックとコンデンサー ・各メーカーの特徴
【前期] 11～15回目	音楽ジャンル・曲調・音楽史や 病気予防・ケア方法を知る。 ・過去の音楽から現在への変遷 ・風邪、声帯ポリープなど
【前期] 16～19回目	読譜・コード・音楽理論その他専門知識を知る。 ・ヴォーカリストに必要な譜面の知識 ・音程とコードの関係
【前期] 20回目	前期試験
【後期] 21～25回目	有名なカバー・アレンジから学ぶ ビート・グルーヴ・コード学 アカペラコーラスを通じてコード感を知る。
【後期] 26～30回目	実践型 コード・音楽理論を学ぶ。 ・良く使われるパターンの提示 ・その例題曲の解説
【後期] 31～35回目	プロフィール作りからセルフプロデュース力を学ぶ。 自己アピールのポイントやステージの作り方からMCを作る。
【後期] 36～37回目	楽曲歌唱中のステージングなども踏まえ 総合的なパフォーマンスの実践①。 ・手の使い方 ・ポージングの基本、切り替え
【後期] 38回目	後期試験
【後期] 39～40回目	楽曲歌唱中のステージングなども踏まえ 総合的なパフォーマンスの実践②。 ・顔の表情 ・リズムに対して
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	ヴォーカリストは何を目的とし、何を重んじ、何に注意する必要があるのか。これらを身体面、精神面の両面から理解し、それを歌のスキルを高めることと同等に重んじること。
使用教科書	目的に沿って考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	歌唱自由(クリエイト)Ⅰ		授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォーカルクリエイトⅠ			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☑	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験10年 ESPミュージカルアカデミーヴォーカルコース卒業。2011年からヴォーカリストとしてライブや楽曲制作を開始。2018年に作詞家としてメジャーデビュー。現在に至るまで様々なクリエイターの楽曲に歌唱や作詞で参加。現在はゲームの主題歌やゲーム音楽を中心に活動している。					

授業概要
自由に課題曲を選び、発声、テクニック、ステージングなど全ての面で、その曲を仕上げていく。個々の声、キャラクターを活かし、“この歌詞、メロディーを伝える為に、自分だったらどう歌うか”を追求する。

到達目標
ヴォーカリストに必要な“自分のスタイル”を見付け、その特性を伸ばし、より確実なものに仕上げて「Only One」の歌を歌えるようになること、それをライヴやオーディションに繋げることを目標とする。

授業計画・内容	
【前期] 1～2回目	歌いたい曲を選ばせて歌唱させ、声質、音域、現時点で身についている技術の提示、好きなジャンルやアーティスト、好みの服装のチェックなどを行い、本人の良いところを提示し、それを活かした歌唱法、ジャンル選びを考えさせる
【前期] 3～6回目	発声面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導(特に共鳴・腹式に関して) ※以下、各ポイントの指導期間の短縮及び曲数の増加は、各講師の判断で行うものとする
【前期] 7～10回目	発声面、技術面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (主にベンド、ヴィブラート、エッジに関して)
【前期] 11～14回目	発声面、技術面、ステージング面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導(主に顔の表情、手の動き、ポージングの設定と変化に関して)
【前期] 15～19回目	フルコーラスの仕上げ(歌詞の内容、オケのニュアンス、リズム等と関連付けて)
【前期] 20回目	前期試験
【後期] 21～24回目	二曲目を選ばせ、発声面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (特に共鳴、腹式に関して＋支え、滑舌)
【後期] 25～28回目	発声面、技術面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (特にベンド、ヴィブラート、エッジ＋ブレスアピール、アクセントなど)
【後期] 29～32回目	発声面、技術面、ステージング面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導
【後期] 33～37回目	フルコーラスの仕上げ(歌詞の内容、オケのニュアンス、リズム等と関連付けて)
【後期] 38回目	後期試験
【後期] 39～40回目	総復習、アーティスト性の絞り込み
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	個性を残したまま自分が歌いたい曲を「歌える曲」にすること。歌えていない曲をただ歌いたいから歌う、ではない形に仕上げることは、ヴォーカリストといして評価を上げる為には大切です。「自分にしか歌えない、自分だから歌える歌」をてに入れましょう。
使用教科書	全コース共通の教科書を使用

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	分野別講座		授業形態 / 必・選	講義	必修
	分野別講座			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科、芸能タレント科　全コース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☑	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経歴25年 高校時代よりバンド活動を行う。専門学校にて学んだ後、1998年レコーディングスタジオに就職し、数々のアーティストの音楽制作業務に携わる。					

授業概要
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。

到達目標
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	・発声の基礎知識 歌唱、台詞(滑舌)
【前期】 3～8回目	・楽器の基礎知識 ギター、ベース、ドラム、キーボード、管楽器、ピアノ
【前期】 9～15回目	・音楽活動における基礎知識 譜面の読み方・書き方、リハーサルスタジオの使い方、楽器メンテナンスの方法
【前期】 16～19回目	・イベントの基礎知識① PA、照明、レコーディングの基礎知識。 イベント資料の作成方法。
【後期】 20～23回目	・イベントの基礎知識② ライブ、レコーディングの進行方法
【後期】 24～28回目	・音の基礎知識 電源、マイクの原理、音の仕組み、デジタル変換
【後期】 29～32回目	・パソコンの基礎知識 スペック、オーディオ、ピクチャ、ムービーについて
【後期】 33～38回目	・卒業後の進路に向けて デビュー、就職
評価方法	レポート提出状況・内容によって評価
学生へのメッセージ	今の時代、ある程度の事は自分一人で出来るスキルが求められます。「興味がない、関係ない」で終わらせず、自分自身の為に学ぶという意識を持って取り組んでください。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時テキストデータをPDF形式で配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	アーティスト実地演習Ⅰ	授業形態 / 必・選	演習	必修
	アーティスト実地演習Ⅰ		年次	1年次	
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	7回(28単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科　全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				

授業概要
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。

到達目標
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。

授業計画・内容	
1回目～5回目	ESP学園主催イベント①～⑤
6回目	コースイベント
7回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボードⅠ（前期）	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボードⅠ（前期）		年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	20回（40単位時間）	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科　全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				

授業概要
キーボードの初歩的な演奏方法と、音楽理論を習得する。
到達目標
コード演奏およびアルペジオでの演奏を習得したうえで、左右とも違う運指可能となる。

授業計画・内容	
1～2回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
3～4回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
5～8回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
9～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク（8分、3連、16分）。
13～16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17～20回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあるとは思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボードⅠ（後期）	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボードⅠ（後期）		年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	20回（40単位時間）	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科　全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☑	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				

授業概要
キーボードの初歩的な演奏方法と、音楽理論を習得する。
到達目標
コード演奏およびアルペジオでの演奏を習得したうえで、左右とも違う運指可能となる。

授業計画・内容	
1～2回目	キーボードの機能について学ぶ。スケール練習を中心に練習。 ダイアトニックコードについて知り、それを課題曲演奏に活かす。
3～4回目	スケール練習の継続、リズムやテンポを変えた練習。 コードの転回形を学ぶ。
5～8回目	リズムパターンのはっきりしたベースラインを演奏する。 あわせて右手でコード演奏を行い、形にする。
9～12回目	課題曲をもとに反復練習、必要に応じて講師による講評
13～16回目	ピアノの特性を活かしたイントロ演奏。コードをアルペジオに変えた演奏。
17～20回目	アルペジオ演奏を通じて、運指のトレーニング。 一人で左右とも異なった動きができるよう反復練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあるとは思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。